

保護者からの児童発達支援事業所評価の集計結果（公表：1/1）

公表日：2026年1月8日

保護者等数：6名 回収数：4名 割合：67%

児童多機能型事業所プラス・スタイル

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか。	4	0	0	0	
	2	職員の配置数は適切であるか。	4	0	0	0	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障がいの特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達への配慮が適切になされているか。	4	0	0	0	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	0	0	0	
適切な支援の提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられているか。	4	0	0	0	・安心してお預けできます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っているか。	4	0	0	0	
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されているか。	4	0	0	0	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	0	0	0	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	4	0	0	0	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されているか。	4	0	0	0	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域での他の子どもと活動する機会があるか。	2	1	0	1	
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか。	4	0	0	0	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか。	4	0	0	0	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われているか。	4	0	0	0	
保護者への説明等	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができるか。	4	0	0	0	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われているか。	4	0	0	0	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思うか。	4	0	0	0	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされているか。	2	0	1	1	・こちらも望んでいない。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか。	4	0	0	0	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思うか。	4	0	0	0	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか。	4	0	0	0	
	22	個人情報の取り扱いに十分注意されているか。	4	0	0	0	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	4	0	0	0	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われているか。	4	0	0	0	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思うか。	4	0	0	0	
	26	事故等（怪我等を含む）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思うか。	3	1	0	0	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	4	0	0	0	
	28	子どもは通所を楽しみにしているか。	4	0	0	0	・いつも楽しそうに通所しています。
	29	事業所の支援に満足しているか。	4	0	0	0	

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表：1/3）

公表日：2026年1月8日

スタッフ数：7名 回収数：7名 割合：100%

児童多機能型事業所プラス・スタイル

		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援等のスペースとの関係で適切であるか。	7	○		・一つの場所に密集しないよう活動スペースを分散したり、注意がたもてるよう仕切りを使用する等、人数や発達特性、活動内容にあわせた環境設定を行っている。(過密にならないよう、見通しを保てる環境を維持)
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	○		・利用人数、定員に合わせた人数配置を調整し、死角なくすることを目的に、臨機応変に連携が行えるよう配置している。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障がいの特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	○		・活動の見通しが立てやすい環境(スケジュール、自立活動、伝達方法の教示等)子どもの発達段階に応じた設定を行っている。 ・危険箇所の把握や共有を行い、必要に応じた補修や補助を行っている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	○		・毎日、使用した物品、場所の清掃を行っている。 ・週1回、全体点検及び清掃を行っている。(月ごとの計画に基づき) ・エアコンや空気清浄機の清掃を定期的に行い、清潔な環境を保っている。 ・湿度、気温に配慮し空調管理を行っている。
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	○		・仕切りを使用し、休憩スペース、自立課題スペース等を設定している。 ・休憩スペースの使用の仕方を絵カードで掲示している。個別部屋の使用方法について適切な教示を行い、誰もが使用できる態勢を整えている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	○		・毎日の申し送り及び月1ミーティングにて事業所及び各自の目標や課題設定、業務に関する振り返りを行っている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	○		・事業所の強み弱みを精査し、強みに関してはさらなる資質向上を、弱みに関しては具体的な課題を上げ改善に取り組んでいる。 ・取り組みの様子や、結果を通信やSNSにて発信を行っている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	○		・月1回のミーティング時に業務の課題や振り返りを行っている。 ・日々の申し送り時に意見交換を行つ時間を設定している。 ・意見について改善策を考え、実行、振り返りを行い、改善に繋げている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	7		・現在外部機関は利用していない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	○		・外部研修や月に一度事業所内研修に参加できる体制を整えている。 ・研修報告書を職員間で共有し、多角的な視点や支援技術を学べるようにしている。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	○		・年間指導計画を作成しており、年度初めに保護者に通知を行っている。 ・年間を通して個々の支援計画に基づき支援プログラムを作成している。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	○		・標準化されたアセスメントツール等(NC プログラム、人との関わりシート、Vineland)を使用し、個別支援計画を作成している。 ・面談や家庭訪問、日々の送迎時にニーズを把握し、分析、課題検討し、計画書の作成を行っている。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	○		・定期的な支援会議を行い、子どもの最善の利益に基づき作成し支援の方向性を共有している。 ・計画に戻づいて支援が行えるよう随時連携をとっている。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	○		・支援会議にて児発管より計画書の説明を行い、支援を行っている。 ・朝の申し送り時に、再度個別の計画について確認を行い、計画に沿った支援を行っている。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	○		・NC プログラム、人との関わりシート、Vineland を用い、定期的にツールを用いたアセスメントを行い、子どもの発達状況の確認を行っている。 ・日々、週、月にて行動観察を行い、様態変化や発達状況に迅速に対応を行っている。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	○		・ガイドラインに基づき、本人支援、家族支援、移行支援、地域支援についての計画を作成している。 ・具体的な支援内容および、個別に応じた配慮や手立てを設定している。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	○		・年間指導計画書に基づいて、季節や発達に応じたプログラム内容の詳細をチームで話し合い立案している。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	○		・目的を明確にし、創作、運動、SST など多様な活動を提供し、個々に応じてプログラム内容に工夫をこらし、固定化を防いでいる。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7	○		・隔週で集団療育、個別療育を行っている。 ・個々に応じて、個別、小集団、大集団へと段階的に参加機会を設け、個別支援計画に基づき、目標に応じた活動設定を行っている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	○		・業務開始前に申し送りの時間を設け、支援内容を共有している。 ・支援内容が変更の際は、担当職員が報告を行っている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	○		・気づきや改善点は、その場で職員間に共有をしている。 ・終了後にできなかった場合は、次の日の朝に行っている。 ・共有した内容を後日他職員にも伝達、職員全体で振り返る。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	○		・その日のうちに記録は完結し、必要に応じて個々の支援課題を洗い出し、改善策を申し送り時に職員間で共有している。 ・支援課題を共有ボードに書き出し、検証、改善を抜かりなく行っている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	○		・3カ月～半年に1回モニタリングを行い、計画書の見直しや保護者の意向確認を行っている。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表：2/3）

公表日：2026年1月8日

スタッフ数：7名 回収数：7名 割合：100%

児童多機能型事業所プラス・スタイル

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点など
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参加しているか。	7	○	・児発管、担当職員が参加している。
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	○	・各分野の関係機関と適宜連絡をとり、共通した支援を行えるようにしている。 ・担当者会議やケース会議にて情報共有や課題共有を行っている。 ・園（参観日、行事がある際、適宜）見学を行い、情報共有を図っている。
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	○	・適宜見学やケース会議を設け、情報共有および共通の課題確認を行っている。
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	○	・個別に情報提供書類を作成、移行が適切に行えるよう伝達を行っている。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7	○	・支援センター主催の研修に参加している。 ・見学をしていただきたり、ケース会議にて助言を受けたりしている。
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	7	○	・児童館や地域の公園等の利用をしている。 ・地域の公共施設の利用を行っている。
	33 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	○	・送迎時に当日の様子や支援内容を申し伝えている。 ・モニタリング時に課題や意向をお伝えしている。 ・必要に応じて相談支援の機会を設けている。
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2	・家族等の参加可能な研修や茶話会の実施、通信にて周知を促している。 ・保護者のニーズを把握するためヒアリングを行っていく。 ・保護者が参加しやすい形式（日時、曜日、オンライン、短時間等）の工夫を講じていく。
保護者への説明等	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	○	・契約時や必要に応じて画面にて、運営規定や年間の支援プログラム等の説明を行い、同意を得ている。
	36 児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	○	・子ども、保護者の意向をお伺いし、個別支援計画書に記載、同意を得て支援にあたっている。 ・家庭訪問にて意向を確認している。
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	○	・個別支援計画書を用いながら、支援内容の説明を行い、同意を得ている。 ・不明点は無いか確認も行い、順序たてて具体的に説明を行っている。
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	○	・適宜、個別に時間を設け、相談、助言を行っている。 ・専門職と連携し、多面的な支援が講じられるよう機会を設けている。
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	7	・保護者会は行えていないが、送迎時に保護者同士で関わる機会あり、情報交換が行えている。 ・勉強会、講座等、定期的な開催を計画していく。
	40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	○	・迅速に職員間で課題、改善策を共有し、業務改善に努めている。 ・職員全体で改善を行い、保護者への説明等を行っている。
	41 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	○	・月一回の通信発行や定期的なSNS発信を行っている。 ・インスタグラムを活用し、日々の様子を発信している。
	42 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	○	・個人情報の取扱いについて契約時に保護者に同意を得ている。 ・SNS、写真共有時にスタンプ加工やモザイクなどの匿名化を徹底している。 ・書類は施錠できる棚に格納し、机上放置防止を徹底している。
	43 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	○	・電話、メール、連絡帳を通して円滑に伝達し合えるツールを使用している。 ・画面や図面、具体物を用いて共有の柔軟性に配慮している。
	44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	7	・地域の公共施設を利用し、地域交流を行っている。 ・バザー等を開催し、地域住民の招待を計画していきたい。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表：3/3）

公表日：2026年1月8日

スタッフ数：7名 回収数：7名 割合：100%

児童多機能型事業所プラス・スタイル

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点など
非常時等の対応	45 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	○	<ul style="list-style-type: none"> 年間安全計画に基づき月1回以上、訓練を行っている。 各安全対策についてマニュアルを作成し、常時確認できるようにしている。 採用時には必ずマニュアルの読み合わせを実施している。
	46 業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	○	<ul style="list-style-type: none"> 月1回以上、防災訓練を行っている。 防災バックの点検を定期的に行っている。 業務継続計画の策定をし、定期的な研修を行っている。
	47 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	○	<ul style="list-style-type: none"> 受診歴、服薬の情報を初回アセスメント時に確認を行っている。 変更確認を随時行い、おくすり手帳等の控えを保護者から受け取っている。
	48 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	0	7	<ul style="list-style-type: none"> アレルギーや好き嫌いの聞き取りを行い一覧にしている。(現在対象者なし)
	49 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援力が行われているか。	7	○	<ul style="list-style-type: none"> 危険箇所や物品破損についてチェックシートを用いて整備や補修を行っている。 毎週の清掃の際、点検を行い、修繕が必要な際は迅速に対応している。
	50 子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	○	<ul style="list-style-type: none"> 通信やSNSにて発信している。 引き渡し訓練時に周知している。
	51 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	○	<ul style="list-style-type: none"> 記録のフォーマットやマニュアルに基づき、対応、情報共有、改善策の提案、実行を行っている。 業務開始前に職員間で想定されることについて共有している。
	52 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	○	<ul style="list-style-type: none"> 虐待チェックリストの自己チェックや研修を行っている。 虐待につながる支援について等の研修を行い、意識啓発を行っている。
	53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	○	<ul style="list-style-type: none"> 現在該当見はない。 契約時に説明を行っている。 研修にて三原則「切迫性・非代替性・一時性」の理解を深めている。

事業所における自己評価総括表（公表）

○事業所名	児童多機能型事業所プラス・スタイル（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	R7年10月22日	～	R7年11月4日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 6人	(回答者数) 4人	
○従業者評価実施期間	R7年10月22日	～	R7年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 7人	(回答者数) 7人	
○事業者向け自己評価表作成日	R7年12月25日		

【分析結果】

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【満足度】 こどもは安心感をもって通所し、楽しみにしている。また、支援に満足している。 (保護者:はい4/どちらとも0/いいえ0/わからない0)	・お子様が意欲的に活動に取り組むことが出来るようになら化子を生かした支援を実施している。 ・成長の見通しを持ち安定した子育てが行えるように、保護者様の気持ちに寄り添い、現状や課題、関わり方などをこまめに伝えている。	・好奇心や意欲をさらに持てるような効果的な療育の提供を行うとともに、安心して通所していただけるよう、進歩状況を保護者様と共有していく。 ・支援の質の統一が行えるよう、支援者のスキルアップのための事業所内研修や外部研修への参加を積極的に行い、更なる学びを深めていく。
2	【環境・体制整備】 清潔が保たれた構造化された空間で、必要に応じた活動スペース及び人員配置を行っている。 (保護者:はい4/どちらとも0/いいえ0/わからない0) (従業者:はい7/いいえ0)	・写真や絵かきを必要な場所に提示し、床の色をペース毎に変え、リソーツし、視覚的に分かりやすい構造化を図っている。 ・過密にならないように活動スペースを分散したり、注意がたもてるよう仕切りを使用する等、人数や発達特性、活動内容にあわせた環境設定を行っている。 ・利用人数、定員に合わせた人数配置を調整し、死角をなくすことを目的に、臨機応変に連携が行えるよう職員配置をしている。 ・消毒、清掃のルーチン化を行い、日、週間、月間清掃計画に沿って行うとともに、適宜清掃、物品補修を徹底して行っている。	・日々、追加で必要な構造物はないか、清潔・安全は保たれているかの改善の目を持ち積極的に個々が行動をすることや、話し合いの場を定期的に設け、改善化を図っていく。 ・利用児童個々の発達に応じた構造化の使用ができるよう支援者のスキルアップを図っていく。
3	【業務改善】 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会を確保するとともに、業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画している。保護者や職員からの意見を聴取し把握している。 (従業者:はい7/いいえ0)	・毎月法人内研修を実施しており、外部研修については告知し、適宜参加している。 ・受けた外部研修の伝達講習を行っている。 ・研修報告書を職員間で共有し、多角的な視点や支援技術を学ぶようにしている。 ・全体会員と個別目標を毎月に立て、実行、振り返りを行い、良い所や改善点の共有ができる。 ・定期的な個別振り返りや面談を行っている。	・業務改善の成果を「見える化」し、進捗の効果の共有、改善のための実行計画を立て、全スタッフで実行していく。 ・定期的に効果のアセスメントを行い、迅速な改善に取り組む。
4	【適切な支援の提供】 こどもと保護者のニーズや課題を標準化されたツールを用いて客観的に分析し、児童発達支援計画を立案し、具体的な支援内容にそって、活動プログラムが固定化されないようにチームで立案し、工夫した支援を特性に応じて提供し、定期的にモニタリングや支援の検証を行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っている。 (保護者:はい4/どちらとも0/いいえ0/わからない0) (従業者:はい7/いいえ0)	・NCプロトコル、Vineyard II、PECS、人との関わりツール等のカーラルなアセスメントの実施と聞き取りやヒヤリハット等のソーシャルなアセスメントを適宜行っている。 ・児童発達支援計画を基に、保護者様と共にお子様の成長にしっかりと向き合い、充実かつ効果的な発達支援を提供していくことができる。 ・月間のプロトコルに基づき、個々の特性や季節に応じて臨機応変に組み立て、内容の変更、適宜見直しや工夫点をチームで考えている。 ・日々の記録を記入漏れのないように、項目に沿ってそれぞれ記入している。改善につなげるために記録から行動分析を行い共有し、スタッフ全体の支援の質の向上を行っている。 ・時期を明確化し、保護者様と話し合い見直しを行っている。	・児童発達支援計画を基に、保護者様と共にお子様の成長にしっかりと向き合い、充実かつ効果的な発達支援を提供していくことができる。 ・月間のプロトコルに基づき、個々の特性や季節に応じて臨機応変に組み立て、内容の変更、適宜見直しや工夫点をチームで考えている。 ・日々の記録を記入漏れのないように、項目に沿ってそれぞれ記入している。改善につなげるために記録から行動分析を行い共有し、スタッフ全体の支援の質の向上を行っている。 ・専門的な知識の向上とそれにともなう実践スキルの向上を目指し、多角的な研修プログラムを立て啓発を行っている。 ・一貫した支援が行えるよう、支援者同士で相互チェックを行う環境を整える。
5	【関係機関や保護者との連携】 担当者会議や関係機関との会議へ参画し、情報共有や相互理解を図っている。また、日頃から子どもの発達の状況や課題について共通理解が図られるように機会を確保している。 (従業者:はい7/いいえ0)	・適宜ケース会議等に児発管を主に担当スタッフや主任が参加し、情報共有を行っている。 ・相互に訪問し合い様子の共有を行っている。 ・来所時、降所時、送迎時に必ず保護者様に声を掛け、様子の聞き取りや伝達を行っている。 ・家庭訪問、事業所内相談を適宜行い、お子様の様子や今後の課題を話し合っている。	・事業所だけで療育を完結するのではなく、ご家庭や関係機関と連携し支援体制の強化が行えるよう、各機関のリソースの共有を行い、より効果的な支援の提供を行っていく。 ・保護者様へケース会議開催の啓発を行う。 ・会議以外にも適宜電話やオンラインにて情報共有を行っていく。
6	【保護者への説明等】 支援計画に基に支援した内容を日々の伝達共有を行っている。また、定期的に家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、共感的に面談や必要な助言と支援を行うとともに共通理解に努めている。 個人情報を留意し、定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している。 (保護者:はい4/どちらとも0/いいえ0/わからない0) (従業者:はい7/いいえ0)	・定期的に調整を行い、家庭訪問や事業所にて面談時間を確保している。 ・随時必要とされる時には時間を設け行っている。 ・個人情報の取扱いについて契約時に保護者に同意を得、SNS、写真共有時にスタンプ加工やモザイクなどの匿名化を徹底している。 ・書類は施錠できる棚に格納し、机上放置防止を徹底している。 ・月一回の通信発行や定期的なSNS発信を行っている。	・個別相談だけでなく、グループでの学習会や、茶話会などの機会を通して、悩みの共有や、支え合いの場の提供を行っていく。 ・実際の支援を参考し、具体物や構造物を使って体験をしていただくことでより理解を深めていただける場を設けていく。
7	【非常時の対応】 業務継続計画（BCP）、各種マニュアル及び安全計画を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している。 (保護者:はい4/どちらとも0/いいえ0/わからない0) (従業者:はい7/いいえ0)	・発生時スムーズに動けるように、各種マニュアル化を行い、年間の計画に基づき、様々な想定をして毎月訓練計画作成および実施している。 ・引渡し訓練を行っている。 ・適宜及び入職時には研修を行い理解する場を設けている。	・年間計画に沿った実施だけではなく、個々の利用児童の実行機能能力の把握を行い、想定外の訓練にも迅速かつ適切な対応力が向上するよう訓練を継続していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	【適切な支援の提供/関係機関や保護者との連携】 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会があるか。 (保護者:はい2/どちらとも1/いいえ0/わからない1) (従業者:はい7/いいえ0)	・児童館や地域の公園等公共施設の利用をしており、お子様も楽しそうに活動する様子を見られるものの、保護者様のお感じになっている十分な機会には至っていない状況である。	・活動内容や参加機会について、保護者様によりわかりやすく周知するとともに、交流の回数や形態の改善を検討していく。 ・地域の他施設や団体との連携をさらに強化し、個々のお子さまに合わせた交流の機会を確保する。
2	【保護者への説明/関係機関や保護者との連携】 事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われているか。 (保護者:はい4/どちらとも0/いいえ0/わからない0) (従業者:はい5/いいえ2)	・通信や家族の参加可能な研修等の案内など、情報提供が中心で、参加機会が限定的である。	・保護者のニーズを把握するためのヒアリングを行っていく。 ・保護者が参加しやすい形式（日時、曜日、オンライン、短時間等）の工夫を講じていく。
3	【保護者への説明等】 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされているか。 (保護者:はい2/どちらとも0/いいえ1/わからない1) (従業者:はい0/いいえ7)	・送迎時等の自然発生的な関わりに留まっており、計画的な支援の場づくりがなされておらず、不定期開催となっている。（2025年度の実施無/継続的な場合は未準備） ・希望していない保護者もあり、ニーズの把握（開催内容・日時・所要時間・開催場所等）が適切に行えていない。	・小規模な交流会や行事を試行的に実施していく。 ・参加状況、意見・感想の収集し、保護者様のニーズをヒアリングする。 ・継続可能な形に整理し、定例化を検討し、年間で計画立案を立て、実施していく。
4	【非常時の対応】 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思うか。 (保護者:はい3/どちらとも1/いいえ0/わからない0)	・事故や怪我が発生した際には、その程度、当日の状況やお子さまの様子について口頭等で説明を行っているが、連絡のタイミングや説明内容が十分に伝わっていないと感じられる状況である。	・事故発生時の連絡について、より速やかに行えるよう、連絡手順や体制を改めて整理していく。 ・事故やヒヤリとする事案が発生した際には、状況説明について、経過や対応内容が分かりやすく伝わるよう、説明方法や内容の統一を図り、必要に応じて書面等を活用し、保護者の方が後から振り返ることができる形での情報共有を検討する。
5	【業務改善】 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。 (従業者:はい0/いいえ7)	・内部での振り返りや改善は行えているが、第三者評価が未実施であり、評価が“内向き”に留まっており、客観的視点による質の検証がなされていない状況である。	・外部評価機関の情報収集を行い、評価受審スケジュールの検討を行う。 ・指摘事項の整理、内部評価との違いを分析し、評価結果を職員会議で共有し、支援の質の向上を図っていく。
6	【保護者への説明等】 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。 (従業者:はい0/いいえ7)	・地域の施設の利用はあるが、発信型取組は事業所内での開催に関して、収容人数や音響に関しての負担が大きく、また、防犯や事故等安全上のリスクを鑑みて行えていない。 ・事業所の休業日が土日である。	・屋外でのバザー等を開催し、地域住民の招待を計画し、地域に開かれた事業所運営を目指し、地域交流の機会を広げていく。 ・地域行事の参加や出店を企画、実施していくよう開催等の情報収集を行っていく。 ・地域の公共施設を利用し、地域交流を継続していく。